

「屋根上作業変更」誰も納得せず！見切り発車か？！

分会情報『VIEW No. 7』で明らかにした通り、会社は12月からの屋根上作業の変更＝C担務を1名体制について、11月22日、班長やGリーダーを中心に説明会を行いました。当初、説明会は15分の予定でしたが、会社の説明に対し疑問や異論が続出し2時間近くに及んだそうです。結局、結論が出ずに、実際の作業を行っている担当者の話を聞こうということで説明会は終わったようです。

その結果、11月25日、26日に担当者を集め、急遽、説明会を行うようになったのです。会社は、今回の屋根上作業の変更を12月2日以降行うことを掲示で明らかにしています。12月2日以降からC担務を1名で作業をすることだけが決まっているのです。「納得しようが、しまいが、まず、やらせる」「とりあえずやらせて、何か問題があればその時に対応する」「納得できない作業を押しつける」という会社の姿勢が根本的に問題なのです。

C担務1名減で安全が守れるか？

屋根上作業の変更「C担務1名」に対して、現場では不慣れな社員が担当になった場合や臨修作業が発生した場合に余裕をもった作業が出来ないことへの不安な声があります。屋根上作業は1重系で相互チェックもありません。このままでは安全は守れません。

会社に、何故C担務を1名にするのかを問うても返答は「東京がやっているから」「片方の運転台のB担務C担務は臨修対応にするため」「作業の明確化のため」とその根拠ははっきりしません。いずれの理由も今まで通りで問題ないはずです。

今回の「屋根上作業の変更＝C担務1名」が1月29日の「パンタ舟体落失事故」やその後のチェックシートの増加、責任の明確化と関係しているとしたら、とんでもない間違いです。「パンタ舟体落失事故」の原因は、やったことのない作業を行わせたことにあるのです。C担務を1名にして作業の明確化をすれば、チェックシートや作業マニュアルがあれば、誰でも作業が出来るという会社の姿勢こそが問題なのです。

私達JR東海労大交両分会は、現在行っている「B担務1名、C担務2名体制」を確立し、安全で余裕のある作業を行えることを求めます。